

ガバナーメッセージ

原点を忘れずに挑戦

～入りて学び、出でて奉仕せよを実践しよう～

国際ロータリー第2590地区 ガバナー 轟 淳次



2014年10月RI理事会は12月をロータリーの6つの重点分野から「疾病予防と治療月間」と致しました。地域社会の医療従事者能力向上、伝染病の伝播を食い止め非伝染病とそれによる合併症を減らすための疾病予防プログラム、地域社会の医療インフラの改善、疾病の蔓延を防止することを目的とした地域住民への教育と地域動員、疾病またはケガによって引き起こされる身体障害の予防、疾病予防と治療に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人のための地区補助金・グローバル補助金を使った奨学金支援を強調する月間であります。

特にポリオ撲滅に殉じた二人の日本人ロータリアン、世界のポリオ撲滅運動の中で特筆すべき、麴町ロータリー・クラブの会員であった山田ツネ氏（1924 - 88年）と峰英二氏（1920 - 89年、医師）です。山田氏は、ポリオ免疫プロジェクトを始めることになった動機を次のように話しています。「私がインドへ行ったときのことです。夜遅くまで続いた会議の帰り、ギョッと立ち止まりました。ガサガサと音がしたのです。犬か猫が餌をあさっているのかと、音の方向を凝視した時、月の明かりで私が見たものは、芝生の上をやせ細った少年が、手と肘を使って這っている姿でした。それは、今思い出しても胸が締め付けられるような痛々しい光景でした。多分幼い頃にポリオにかかり足が麻痺してしまったのでしょうか。この少年の姿を見たとき、私は、南インドの子供たちを日本人の手でポリオから救いたいとの思いが生まれたのです。」山田氏は、1981年からボランティアとして、

インドのハシカ免

疫プロジェクトである4週間の奉仕活動に従事されました。その経験を生かして翌年、南インドのポリオ免疫プロジェクトを推進され、東京地区の100以上のロータリー・クラブの協賛を得て、奉仕の巾と効果を上げていきました。山田氏に次いでポリオ撲滅運動に取り組んだ方が峰英二氏です。峰氏は、常に山田氏と一緒に、南インドでのワクチン投与の奉仕活動に従事され、度々インドに行かれ、活躍されました。その山田氏は1988年に、病に臥されその後間もなく逝去されました。病名は定かではありませんがインドでの風土病とも言われています。一緒にインドで活動された同僚の峰氏も山田氏の後を追うように、1989年に病没されました。このお二人は、ポリオ撲滅活動を世界的規模の運動へ発展させた原動力となり、ポリオの撲滅に多大の貢献をなされました。お二人は、「世界からポリオを撲滅する」という目的達成を目前にした現在のこのプロジェクトの状況をどのように見ておられるのでしょうか？目的達成した暁には、直ちにお二人の墓前にその報告に伺いたいと思います。そしてこのお二人の功績を世界に知らせたいと思います。（第2580地区2007-08年度ロータリーのホームページより引用

二人の麴町ロータリー・クラブの会員、山田ツネ氏（1924 - 88年）と峰英二氏（1920 - 89年、医師）の意思を世界に知らしめる為に、我々は「世界からポリオを撲滅する」まで、根気よく最後まで見守る必要が有ると思います。